

インクルーシブの窓

令和7年4月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



「インクルーシブ」という言葉について考えましょう！



富山県でも、障害の有無にかかわらずみんなが一緒に遊べるインクルーシブ遊具が設置されてきていますね。「inclusive（インクルーシブ）」は、「すべてを包み込むような」という意味の英語です。

さて、富山空港の近くにある、富山県空港スポーツ緑地インクルーシブひろばでは、毎年3回「インクルーシブDAY」が開催されています。昨年度は、障害のある子を含め多い日には150名ほどの利用があったそうです。

ひろばの入り口にある案内板（右写真）には、「このひろばでたくさんの人が楽しい時間をいっしょに過ごすことで、優しさと思いやりの心が育つ場所となることを願っています。」と書かれています。



このひろばでは、昨年度に利用者アンケートが行われました。遊具や施設、安全や安心について多くの意見が寄せられ、その中に次のような声がありました。

インクルーシブのことばはきこえが良いが、障害を持つ親の立場からすると、周囲の障害への理解と、インクルーシブ推進の動きが合っていないように、常日頃から感じる。インクルーシブを推進するなら障害者への理解の推進は、インクルーシブ以上に力を入れていかないと共生社会の実現はほど遠いと痛感中。

※富山県ホームページ『「第3回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議」の開催結果について』（議事録及び会議資料、2025年2月26日更新、土木部都市計画課）より転載

この文章を読み、平成24年に中央教育審議会初等中等教育分科会によって取りまとめられた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進（報告）」を思い出しています。その中に次のような記述があります。

特別支援教育に関連して、障害者理解を推進することにより、周囲の人々が、障害のある人や子どもと共に学び合い生きる中で、公平性を確保しつつ社会の構成員としての基礎を作っていくことが重要である。次代を担う子どもに対し、学校において、これを率先して進めていくことは、インクルーシブな社会の構築につながる。

インクルーシブ遊具の設置された公園が、多くの人々が交流する場になることはもちろんですが、私たちの学校こそが、多様性を認め合い、互いに理解し合える人間関係づくりの場となることを願わずにはられません。